



乳房の検査

乳がん検診には、一般的にマンモグラフィ検査・乳腺超音波検査があります。各々の検査の特徴を知ってもらい、乳がん検診受診の際に参考にしてください。

① 検査による違い

検査種類	マンモグラフィ	乳腺超音波
検査方法	乳腺を圧迫板で押さえ均一に広げ、X線を使って撮影をします。	乳腺に超音波をあて、跳ね返ってきた反射波を画像化します。
検査を受けられない方	<ul style="list-style-type: none"> ♥ 妊娠中や妊娠の可能性のある方 ♥ 豊胸術後の方 ♥ ペースメーカー等を埋め込みされている方 	無し
検査の痛み	有り	無し
見つけやすい乳がんの種類	石灰化をおこす乳がん	小さな腫瘤をつくる乳がん
検査に適した乳腺濃度	脂肪性・乳腺散在	高濃度でも評価可能

② 乳腺濃度とは

乳腺濃度とは、マンモグラフィの写真で見たときの乳房の白さの程度のことです。

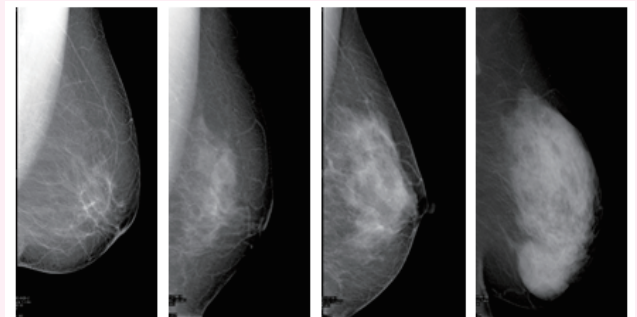
右の写真はいずれも正常のマンモグラフィですが、人によって見え方が様々です。一番右側の写真は乳房が全体的に白っぽく写っており、このような乳腺を「高濃度乳腺」と言います。

乳がんも写真では白く写りますので、乳がんの検出が少し難しくなります。このような乳腺の方は超音波検査の併用が望まれます。

逆に、一番左側の写真の方は、乳腺組織が脂肪に置き換わっており、このため写真全体が黒っぽく写りますので乳がんは見つけやすくなります。

マンモグラフィ画像

乳腺濃度の違いによる見え方の違い



脂肪性

乳腺散在

不均一高濃度

高濃度

③ 検査の痛みについて

乳腺超音波検査では痛みはほとんどありません。それに対してマンモグラフィは多少痛みを感じるかもしれません。

痛みの原因は画質をよくするため圧迫板で乳腺を押さえて撮影をするからです。しかし、この痛みは個人差があり、全く痛くない方もいます。健診で行うマンモグラフィ検査では、継続して受診していただけるように痛みを配慮して可能範囲内で実施します。痛みが怖くて受診の一步を踏み出せずにいる方は是非ご相談ください！

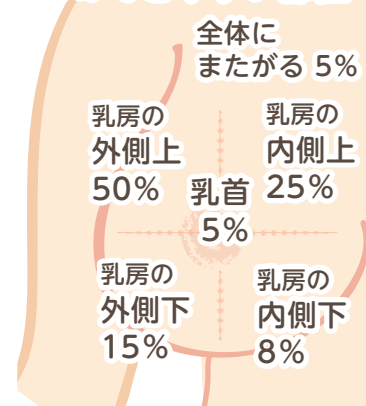
④ 自己触診では乳房全体を触ってみましょう

乳がんには好発部位（できやすいところ）があります。

右図のように外側のうえの方が一番多い部位です。

自己触診（セルフチェック）では乳腺全体をまんべんなく触れる必要がありますが、好発部位を特に意識してみてください。

乳がんのできやすい部位



今回は、『乳房自己触診（セルフチェック）』についてお伝えします。

